

令和4年度学校評価 自己評価書

具体目標→◎…達成, ○…ほぼ達成, ●…未達成

令和4年所見→□…達成, ■…未達成

対象	重点項目	具体目標	令和4年度末	
			令和4年所見	改善策(今後の取組)
総合評価	(前表に掲載)		職員各々が、意識をもって学校教育目標の具現化に向けて取り組む、田富小学校学校評価に今年度も引き続き取り組んできた。数年にわたる継続的な取り組みであるので、職員一人一人の意識の高まりも見られ、目指す児童像に近づけられるように積極的に取り組む姿が見られた。今年度の重点目標は昨年度と同様、11項目で、それぞれの項目の中に具体的に設定された具体目標は16項目であった。今年度は、具体目標16項目中、15項目で「達成」、または「ほぼ達成」となっており、未達成項目はわずか1項目であった。また、これら複数の具体目標を合わせて総合的に判断する重点項目については、ほとんどの項目において、目標を達成することができている。感染症が発生してから早3年。教育活動のあらゆる部分で制限を受け、なかなか以前のような思い切った教育活動ができない現状で、職員一人一人が知恵を絞って取り組んできた結果であると思う。	・年間の計画の中では、PDCAサイクルに沿って行っているのに、チェックのあとのアクションに如何に取り組むかは重要な要素になるが、アクションへの移行について積極的に欠ける部分があるように感じる。本校の場合、1学期末に教職員による振り返りがあり、2学期末には、全体の振り返りがある。よって、2学期に向けて、あるいは3学期に向けて如何に取り組んでいくべきかを考え、実施していかなければならない。そのために、評価自体についても、数年前より、1年間の中で修正していけるような日程になっている。こういったサイクルにおけるもっとも重要な部分をこれまでより掘り下げていく必要がある。
			詳細を振り返ると、課題のある項目は、まず、「本が好きの子の育成」である。6年生の学力学習状況調査の結果からも、長文問題を読み解く力に課題があり、読書好きな児童をつくることは必須課題である。もう一步というところでの未達成であるので、今後更に活動を強化し、読書好きな児童を育てていく。自主学習ノートの「やってみるじゃんノート」の提出数も昨年に比べ、減少している。6年生の学力学習状況調査で、国語科において、県や全国との差が大きかった領域に「漢字」があった。計算や漢字などは、日々の学習の復習として、自己の反復練習が必要となるものである。子ども達が、自分自身のために家庭学習のひとつとしてしっかりと取り組んでいくことが肝要である。そのために、どのような取り組みを学校として行っていくかを今後改善していく。本年度も、見本的な取り組みノートをクロムブックで全校児童に紹介するなどの啓蒙活動も行ってきたが、まだまだ取り組んでいく必要があると感じている。また、「清掃活動への取組」「当番や係活動への取組」など周囲の友達との協力などに関わる部分ももう一步という結果であった。学校教育目標にも「みんなのために働こう」「みんなとなかよくしよう」とある。感染症の影響で、小社会であるはずの学校が、人と人との関係を十分に保てない状況に追い込まれていることもいづらか影響しているかもしれない。こういった周囲とのつながりをさらによいものにし、個の成長にも繋がるよう、さらに力を入れていく必要があると感じる。感染症の影響があると思われる項目はさらに続き、全県的にも課題になっている体力の低下が本校においても確認されている。今年度から水泳の授業が再開されるなど以前の教育課程に戻りつつあるが、児童の体力向上に向かって取り組んでいかなければならない。また、健康面で心配となるのは、給食の残菜量の目標値をクリアできなかったことである。特に夏場の残菜が多い。外国籍児童の中には野菜嫌いの児童も多く、日本語指導と同じように食教育にも取り組んでいく必要性を感じるし、日本の児童にも好き嫌いが顕著な児童が多くいることも事実であるので、今後も計画的に取り組んでいく。	・各項目の担当者による計画推進については、これまで同様意欲的な姿勢を感じているが、学級・学年単位になったとき、温度差がでてしまうことも否めない。評価結果を受けて、「この項目については、まだまだ取り組んでいく必要がある。だから、今学期からは、こう取り組んでいきたい。」という学級担任の考え、あるいは、学年としての姿勢が重要となってくる。例えば、自学ノートの提出率に高学年、低学年の差があることは、宿題の分量などの差もあるので、当然考えられることであるが、少なからず、結果を反映し、目指す児童像に近づけるためにどう指導していくのかを考えていかなければならない。それは、単に子ども達に過度の負担を課すということではなく、各学年学級において無理のない程度でも構わないので、一步踏み出すということである。これは、当該学年や学級担任には十分に意識できない部分でもあるので、管理職による活動になると考えるが、こういった面でまだ十分でないという反省がある。
			ICTのより効果的な活用、ネット・ゲーム使用の長時間化、保護者や地域との連携等、まだまだ取り組んでいくべき課題は山積しているが、今後もこのスタイルの学校評価を継続させながら、よりよい学校づくりに取り組んでいこうと考えている。	・「確かな学力を支える授業づくり」については、より確実に取り組んでいかなければならないと考える。というのも、近年の教職員の年齢構成が、全県・全国におけるものと同様の傾向があり、圧倒的に経験の少ない若い教師が多いということである。本校では、校内研究を授業づくりの軸として取り組んできているが、ベテラン教師の授業を参観する機会もそうそうない。これから数年後までを見据え、「田富スタンダード」による確かな学力づくりを継承していかなければならない。これは管理職も含め、これまで数多の実践を重ねてきたベテラン教師の重要な役割である。これからの田富小教育を推進していくためにも、普遍的な「わかる授業」を若い世代に伝えていくことが大切になると痛感している。

<p>社会 を 生 き 抜 く (生)</p>	<p>1</p>	<p>自立の 基礎を 培う</p>	<p>○目標をもって学校生活を送り、振り返りにより自己の成長や新たな目標に気づく子供の育成。</p> <p>○基本的な生活習慣を身に付けた子供の育成。</p>	<p>□職員アンケートの「つなげる日記を計画的に書かせ、チェックを入れていますか」という問いに、肯定的な回答をした職員は93.2%であり、昨年度比8ポイントアップした。否定的な回答をした職員も6.8%と減少し、忙しい中でも地道な取り組みが着実に進められている。</p> <p>□ネット・ゲームの使用に関して、年3回保護者への調査を行った。 ①1日2時間以上している児童は8月調査では18%、6月調査では16%、1月調査では16%であった。 ②9時を過ぎても使用している児童は、8月調査では9%、11月調査では8%、1月調査では9%であった。 1月調査は「冬休み中の4日から土日を含む10日と、楽しい時期と重なってしまい、時間が増えてしまった」という感想が多かったため、少々増加気味であることを考慮して、今年度内では改善傾向にあるといえる。しかし、昨年度と比べるとゲーム時間が長い児童が増加傾向にあるのが気になる。今後も、ネット・ゲームの使用に関して、ゲーム脳、ネット依存の防止、望ましい生活習慣の大切さなどに、便り等で保護者への啓発に努めていく必要がある。</p>	<p>◆つなげる日記の内容は、授業や学校生活の振り返りについて、行事の反省、家の出来事、そして、困りごと・悩みや成長したことなどを取り入れるクラスも増えてきた。今後も継続的に、自学の内容として紹介する、日記を書く視点をノートに貼らせる、定期的な重点となる視点を提示する、キャリアパスポートを作成する際に自己の変容を振り返る資料として活用していく。教師は、負担とならない範囲で、紹介したり、チェックを入れたりして、意欲喚起を心掛ける。</p> <p>◆年度初めのPTAの折に、「ゲームとスマホの田富小の基本ルール」について伝え、保護者の意識の向上を図る。 ◆情報機器・端末の正しい使い方について親子で学習する機会をもつ。 ◆年に3回ほど、定期的の実態調査を行いその結果を保護者に報告する。また、目標が守れない児童には、学級担任より児童に指導したり、家庭訪問・個別懇談等の機会に保護者に改善を促したりすることを、職員会議で確認し、確実に取り組む(調査時期については考慮する必要があり、どの時期が適切か考えていきたい)</p>
<p>社会 を 生 き 抜 く (生)</p>	<p>1</p>	<p>自立の 基礎を 培う</p>	<p>○自分の命を守ることができる子供の育成。</p> <p>○みんなのために働くことのできる子供の育成。</p>	<p>□保護者へのアンケート調査の結果、ヘルメットの着用率は変わらず70%、所有率も80%を超えている。今後も便りなどで、ヘルメット着用や自転車保険加入の必要性を伝えていきたい。</p> <p>■学校評価の児童アンケート「校内をきれいにしよう」と取り組んでいるか」の問に対し、肯定的な回答は96.9%となった。また、「そう思わない」と回答した児童は0.0%から0.9%となった。目標の98%は達成できなかったものの、依然として高い達成率を維持してきたと言える。学級での普段の丁寧な指導や児童会のSTKZ(S:静かに、T:丁寧に、K:協力して、Z:時間を守る)の取組が、浸透していたことが分かる。今後も継続した取組に努めていきたい。</p> <p>□学校評価の児童アンケート「委員会活動は、充実した活動になっていると思いますか」という問に対し、肯定的な回答は98.3%となった。目標の95%を超えることができた。昨年度と同様に目標を達成することができた。また、「そう思わない」と回答した児童は昨年と同様に0.0%となった。6年生がリードしながら、委員会活動の充実した様子が見られる。</p> <p>■学校評価の児童アンケート「クラスのために当番活動や係活動に取り組むことができたか」の問に対し、肯定的な回答は94.9%となった。目標の95%をほぼ達成することができた。担任による学級指導の結果、子供たちに自分たちの活動として意識され、目標設定ができていたようだ。</p>	<p>◆実態調査を行い、自転車乗車時の児童のヘルメット着用と、保護者の自転車保険加入についての意識の向上を図る。そしてその結果に基づいた指導を行う。低学年における指導や取組を重点的に行う。 ◆関係機関の指導者を招聘し、3学年にて自転車の安全教室を実施する。</p> <p>◆学級指導だけでなく、児童会活動とともに取り組む。年度当初の職員会議で掃除のやり方を確認する。さらに清掃について、縦わり班を活用した清掃活動や、掃除に関する学級会での話し合い、道徳の授業で、勤労・公共の価値項目で取り上げる等、意識を改善していく。 ◆各担当を中心に児童会活動や委員会活動の目的や学校教育目標とのつながりを確認し指導に当たる。児童が1年間の目標や活動内容を話し合い、主体的に取り組めるようにする。また、定期的に活動を振り返り、意欲が保たれるようにする。 ◆学級会等の時間を使って当番活動と係活動の違いを確認し、指導に当たる。学級目標との関連を意識した児童の活動が行われるようにする。</p>

確かな学力(生)	2	聞いて考え、語り合う子を育てる	<p>○話している人を見て、考えながら最後まで聞くことができる子どもの育成。</p> <p>◎聞いて考えたことを語り合い、学びを広げたり深めたりすることができる子どもの育成。</p>	<p>□2学期終了時点で、「あゆみ」の「生活のようす」の「落ち着いて人の話を聞くことができる。」の評価が「◎○」の児童は、90.2%であった。目標は90%以上であったので、目標は達成されたが、昨年度と比べると2.9%ほど減少した。その原因として、各学級において聞き方についてのめあての確認をしたり、振り返りをしたりの活動を、十分にできなかった結果だと思われる。</p> <p>□学校評価の児童アンケート「あなたは授業中、友達の話聞いて自分の考えをより良くすることができますか。」の質問項目に対し、肯定的な回答は93.1%であった。目標の90%は達成されたが、その原因としては、各学級での話し合いが積極的に行われ、子どもたち同士が考えを交流し合うことで、学びを広げたり、深めたりすることができた結果であるということが考えられる。</p>	<p>◆子どもの発言がにつながる授業を心掛ける。また、「よい聞き方カード」を使って「話している人を見ていたか」「最後まで聞いたか」「考えながら聞いたか」などを授業の中で振り返らせ、継続的に指導する。</p> <p>◆児童が考えをもつ時間を保障する。ホワイトボードやICT機器などを活用し、ポイントを絞って説明できるようにする。</p> <p>◆授業中、小グループでの話し合いを取り入れる。少人数により話したり聞いたりする機会を保障し、注意深く聞く態度を育てる。</p>
	3	読む子を育てる	<p>●本が好きな子供の育成。</p> <p>◎音読したり暗唱したりすることを楽しむ子供の育成。</p>	<p>■うちどくカレンダーに月の半分以上○が付く児童の目標を60%に設定した。読書週間の月の達成率は全校平均が60%に近付いたが、昨年より目標を下回る月が多くあった。全体の3割のクラスがほぼ毎月達成していて、読書が習慣化してきていることが分かった。これは、長年根気強く取組続けてきた成果だと感じている。クラス間のばらつきと読書週間以外の月や長期休業中の達成率の差が課題である。高達成率だったクラスでは、身近な大人が関わりをもっていることが分かった。家庭の読書への関心向上の取り組みを継続し、全校の達成率60%を目指したい。</p> <p>□音読カードや暗唱カードを活用し、名詩名文や物語などの暗唱に積極的に取り組んだ。学校評価の児童アンケートによる「1学期、2学期に、それぞれ1つ以上の詩や物語を暗唱することができましたか」という問いに対して、肯定的な回答は85.1%であった。好きな詩や物語の一節を暗唱できる児童を各学級85%以上にするという目標は、達成できたといえる。今後も楽しんで音読や暗唱をする児童が増えるよう、継続して取り組みを続けていきたい。(昨年度行った「全校暗唱発表会」は、今年度は2学期末はコロナ感染予防でなかなかできなかったので3学期に予定している。)</p>	<p>◆「ミニミニ読書週間」「私の好きな名詩・名句紹介」を実施する。「うちどくカレンダー集計表」などをもとに分析し、学級毎の対策を考え実施する。家庭の読書関心向上の為、うちどくコメントの図書だよりへの掲載、親子読書保護者からのおすすめ本掲載、うちどくパーフェクト賞児童の奨励をする。また、個々の児童の読書力や読解力を伸ばすためにも国語の単元毎の読み聞かせや並行読書の推進にも努めたい。</p> <p>○児童が暗唱したくなるような名詩名文の提示や授業内容と関連させ年間を通した授業での取り組みの他に、暗唱係を決めるなどして、年間を通して、朝活動や朝の会の時間に自主的に取り組むことができるような場をつくっていくことも有効だと考えられる。昨年度行ったオンラインによる「全校暗唱発表会」を今後も継続し、互いに暗唱の成果を交流する機会を設けていく。</p>
	4	確かな学力を支える授業づくり	<p>○毎時間ごとのめあての達成に向けて、自ら問いをもち、仲間とともに学ぶ授業の実施。</p>	<p>□今年度、学校評価アンケートにてより明確に児童の自分の勉強する力に対する認識を確認できるよう、アンケートの文言を「あなたは、自分の意見をもてるようになったり、友だちと意見交換をしながら考えをまとめたり、クロームブックを使って勉強することができるようになったりしたと感ずることがありますか」と変更して値を取った。達成目標として、肯定的回答を90%以上と設定したが、結果としては95.7%と達成できた。</p>	<p>◆今後も全教員で田富スタンダードに沿って、授業のゴール、課題、まとめを提示した授業を続けていく。ただ各教科・各学年に応じて田富スタンダードを用いていくために、具体的にゴールや課題について毎年しっかりと共通確認をすることも考えていく。</p> <p>◆学力検査の分析や学力向上委員会の開催を通じて、担任から児童の様子を共通確認することで、支援体制の構築につながった。今後も担任だけでなく学校全体で児童の指導に当たる。</p> <p>◆ICTの活用については、校内研究で行うからという活用で留めず、学年ブロックや個々で深め、共有した内容を、児童が自ら課題解決に取り組めるように、各教員が必要に応じて活用する姿勢をもち続けていく。また共有しやすいよう設備・体制を整える。</p> <p>◆今まで通り、今後も校内研究のみならず、日々の教育活動の中で、教員間で授業についてもコミュニケーションをとり合い、学び合いながら、授業改善に生かしていく。</p>
確かな学力(生)					

豊かな心 (信) (命)	5	自ら学ぶ子を育てる	<p>○進んで家庭学習に取り組む子供の育成。</p> <p>□家庭学習に取り組む時間について、達成目標値を85%以上と設定した。全校平均値は83.1%であと一步で達成するところまでいった。昨年度の83.7%とほぼ同じ達成率であった。児童が取り組む時間を意識して学習できていることがうかがえる。低学年は86.8%、高学年は79.5%の達成率であった。</p> <p>■「やってみるじゃんノート」の取り組み量の達成目標値を82%以上と設定した。全校平均が56.7%であり、目標を達成できなかった。低学年76.5%、高学年が43.7%であり、学級によって達成率にばらつきが見られた。昨年度は低学年92.5%、高学年が78.5%であった。量的にも時間的にも、学年が上がるに伴ってまとまった時間を継続して学び続けることに困難さをもつ児童が増えきていると考えられる。高学年になると学習内容も難しくなるため、すべての児童がその子に合った方法で家庭学習に取り組めるよう、よりきめ細かな支援が必要である。</p>	<p>◆引き続き「家庭学習力の様子」カードを用いて、自身の家庭学習についての振り返りを行い、次への目標をもてるようにする。また、保護者に家庭学習の大切さを伝え、児童の取り組みの様子を共有していくことも継続していく。</p> <p>◆2学期末の段階で目標を達成できていない児童には、学習内容や学習方法について個別に支援していく。</p> <p>◆児童の自主性に任せるだけでなく、意識的に「やってみるじゃんノート」への取り組みを仕組むことも必要である。低学年の段階で習慣化し、さらに中、高学年で自主的な取り組みにつなげていくことができるよう、系統的な働きかけが必要である。</p>
	6	心の居場所と支え合う学校生活	<p>○安心して楽しい学校生活を送り、気持ちよく活動できる学校作りと支援体制の確立。</p> <p>□学校評価の児童アンケート「学校が楽しいか」の問いに対し、否定的な回答は3.4%だった。5%未満にするという目標は、達成された。一人一人の気持ちを把握し、個々に聞き取るなどして、いじめの解消、学級づくり、保護者へのきめ細かい連絡等に努めてきた成果だと考える。</p> <p>□学校評価の児童アンケート「何かあったら先生に話しているか」の問いに対し、肯定的な回答は88.6%だった。目標の90%には届いていないが、令和になってから一番高い数字である。コロナ対策で黙食やソーシャルディスタンスの影響が心配される中、子ども達の気持ちに寄り添い、よく話を聞き、つながりを深める地道な取り組みの成果だと考えられる。</p>	<p>◆来年も学期に1回「生活アンケート」を実施し、いじめの早期発見・対応に努める。</p> <p>◆年間2回のQUの結果を学年で分析し、ルールと信頼関係に基づく学級づくりに努める。</p> <p>◆職員会議や校内委員会で情報を共有し、全校体制で指導に当たる。</p> <p>◆互いに認め合い、自己肯定感を高める取り組みを各学級で実施する。担任は児童の行動を価値付け、全体に広げる。</p> <p>◆言葉で気持ちを伝えたり助けを求めたりできるようにする。相手を傷付けるような言動は見逃さず、その場で指導する。また、学級活動や道徳の授業、校外学習における事前指導、全校集会等で継続的に指導を行う。</p>
	7	地域とつながるあいさつの活動	<p>○学校・家庭・地域で、あいさつができる子供の育成。</p> <p>□学校評価項目の保護者アンケート「あなたのお子さんは、あいさつがよくできていると思うか。」という問いに対し、肯定的な回答が全体の85.4%であり、昨年度の肯定的な回答85.3%とほぼ変わらなかった。一方、児童アンケート「あなたは、あいさつが良くできていると思いますか。」という問いでは、肯定的な回答が95.5%(昨年度91.9%)であり、児童のあいさつへの意識は向上したといえる。また、学級や登校班指導の折に、地域の方へのあいさつができるよう指導してきた。実際、守り隊の方々へ児童があいさつする姿がみられた。</p> <p>□今年度、児童会活動の3つの柱の1つにあいさつの内容を設定して取り組んできた。1学期・2学期と、クラスごとにあいさつの取り組みを考え実施してきた。また、児童会本部主催のあいさつ運動(おはしール)の取り組みも行っており、あいさつをする姿が増えてきている。</p>	<p>◆来年度も児童会を中心に、児童が主体的にあいさつができる取り組みを考えて取り組む。</p> <p>◆継続的な指導が重要であるので、地区別集会等、機会を探しながら定期的にあいさつに関する声かけをしていく。</p> <p>◆一番身近な大人である教職員が率先して児童や来校者に対して進んであいさつをしていき、見本となる。</p>

	8	共生の教育	<p>◎多様な他者を知り、尊重し、折り合いをつけながら目標に向かって共に学び共に活動できる子供の育成。</p>	<p>□学校評価の児童アンケート「あなたは、だれとでも仲良く協力して活動していますか。」の問いに対し、94.5%の児童が肯定的な回答だった。昨年度同様、90%を超える結果となり、目標は達成できた。質問の「誰とでも」の部分に多文化共生、多種多様な他者理解があるととらえているので、フレンドシップ委員会の活動を中心に全職員の共通理解の下、多言語や多文化にふれる機会をもち、広く周知する活動を続けている成果だと思われる。児童も多言語であいさつする姿が見られるようになり、言葉や食などへの興味関心を多文化共生への入り口と考え、今後も継続していきたい。</p>	<p>◆多種多様な児童の背景に迫り、日系人とは何であるのかの理解に努め、他者理解、多文化共生、国際力を身につけた児童の育成に引き続き、努めたい。</p> <p>◆コロナ禍での活動の模索を引き続き考えたい。</p> <p>◆職員会議などにおいて、全職員で児童についての共通理解を図り、指導・支援にあたっていく。また、いろいろな児童が活躍できる機会や場を各学級や委員会活動、行事等で意図的に設けていく。</p>
健やかな体(命)	9	体力向上	<p>○自ら運動に親しみ、体力の向上に努める子供の育成。</p>	<p>■5月の50m走では、全国平均を上回っていた児童は全体の48%だった。12月の50m走では、全国平均を上回った児童の割合は、1年生(48%)、2年生(83%)、3年生(75%)、4年生(53%)、5年生(60%)、6年生(50%)となった。全校平均61%となり、当初の目標であった75%以上を達成することができなかった。この結果から、児童の運動機能が著しく低下していることがわかる。(昨年75%)コロナの影響もあって外遊びが減っていることも原因と考え、外遊びの大切さを啓発していく必要があると感じた。</p>	<p>◆休み時間に放送をし、外遊びに興味をもてるよう呼びかけを継続していく。</p> <p>◆運動をすることの楽しさを感じられるような企画を体育委員会と連携して作成し、楽しみながらも運動機能を向上できるように取り組みを実施していく。</p>
	10	食育の推進	<p>○食に対する関心をもち、健康な体作りに努める子どもの育成。</p>	<p>■残菜調べの結果から、一人当たりの残菜量は平均で37.3gであった。目標であった年間平均30g以下には及ばなかった。要因としては5～7月の残菜量が40gを上回っていたため、暑い時期の食欲の減少が考えられる。また、コロナウイルスもあり、配膳の仕方が難しくなっていることが残量に影響していると考えられる。しかし残菜量が最も多い7月は45.1gであったが11月は31gと大幅に減少していた。</p>	<p>◆喚起や室温など食べる環境を整える。</p> <p>◆5～7月の残菜調べを行い、結果を子どもたちに提示する。</p> <p>◆暑さに負けない身体づくりのために栄養の摂り方について指導する。</p> <p>◆食べ物の栄養や給食にはたくさんの方が関わっていることなど考えられるように、給食委員会を中心に動画の作成や取り組みを行っていく。</p>
信頼される学校(信)	11	積極的な情報発信と連携	<p>○保護者や地域に対する積極的な情報発信の実施。</p>	<p>□学校評価の保護者アンケートの「学校は適切な連絡や情報提供を行っているか」の問いに対し、肯定的な回答は97.7%だった。コロナウイルスの影響もあり、養護教諭を始め、各教員が児童の体調の確認や連絡を綿密にとったことや、日ごろから些細な事であっても保護者に連絡するということを、心がけて行ってきた成果であると思う。</p> <p>■「学校の情報を得るためにHPを閲覧したか」の問いに、肯定的な回答は66.2%だったため、目標の80%には及ばなかった。ホームページの移行に関わって、1学期中はブログの更新がほとんどできなかったため、保護者の方に学校の様子を発信したり、積極的に閲覧するように伝えたりすることができなかった。2学期以降は、ブログの更新やQRコードをお便りに掲載したものの、閲覧は少なかったため、今後は、ホームページの移行の状況も踏まえながら、ブログの更新や周知に努めていきたい。</p>	<p>◆来年度も学校だよりや各クラスの学級通信等を定期的に作成し配布する。</p> <p>◆日常的に児童の安全確保や健康管理について、緊急メールや電話により迅速かつ適切な情報の提供を行う。</p> <p>◆各種届の様式や学習コンテンツなど保護者や児童が必要とする内容の充実に努める。</p> <p>◆各学年のブログの更新について、担当が定期的に確認する。</p>